

# 記録



昭和40年度

春山合宿

信州大学山岳会  
長野山岳部  
女子パーティー

1. 計画概要

①

目的：生態技術の活用を討る。  
女子独りでの遠掛りとなる事、自主性を養う。

場所：妙高山—火巧—焼山—飯。峰牧場。

方法：縦走

期日：1966年3月6日(日)～3月11日(金)

2. 行動概要；

3月6日	長野—池の平—防火線(三山スキー場分枝)
3月7日	防火線—カナメ—赤倉山の登り
8日	テニ場—1900m地点(引返可)—カナメ
9日	空身で妙高山往復
10日	カナメ—池の平—長野

3. 参加者；

駒井 浩	C.L. 記録
藤沢 通代	気象、食糧
杉井 崇子	燃料、装備、医療、会計

4. 行動日誌；

⑥ 曇後雪  
 9:07 長野発  
 10:26 田口  
 11:05 (入山届)  
 11:35 池の平発  
 | 2ピッチ  
 12:55 } リバ終了  
 1:05 }

| 2ピッチ半  
 3:10 テニ場  
 5:40 夕食  
 7:30 就寝

1名遅刻。せめてカナメまでと出発するも、交々に遅  
 延、ほかどうず。15ピッチ下に天張る。スキー場は良  
 ラストした上に、わずかに新雪が積った程度で、歩  
 かたが、その後10cm位の新雪の下がガウ人状に凍  
 り、古いトレースでデコボコして、時々深くモグルの  
 (1)

②

で、意外とラゴカした。新雪は湿っているが、旧雪と馴んでいない。視界も効かず士気はあがらない。

⑦ みぞれ後雨。

3:10 起床

3:55 朝食

5:40 出発

| 1.5ピッチ

7:45 カナメ

8:30 カナメ

12ピッチ

15:00 行動中止(テ張り)

5:30 夕食

8:10 就寝

山岳気象解説を聞いて出発した時は、既に雨であつた。雪の状態は非常に不安定。偵察の後、後線を通し進む。森林帯とは言え、傾斜も増し、雪はますます不安定になって、足元より崩れて落ちる。テントを張るのに良い地形を見つけ半沈とする。身体はぬれていて雨が降る程の気温の高さ。インパーにポンチョをきせて雨滴を防ぐ。昼から沈殿食のホットケーキとカンパの一部に舌つづみをうつ。2日間とも見晴らしゼロ。

⑧ 雪後小雪

2:55 起床

7:55 出発

8:45 ザックテポ(1900m Peak)

| 35分で2000m地点往復)

10:05 引き返す。

10:40 カナメ着

昨日の天気図と山岳気象解説から悪くなる予想だったが、赤倉山さえ越せば良いと判断、雪もブレーカブルクラストで意外安定しているのでも出発。しかし赤倉山の登りが急斜面で、どろどろゆるんできた積雪状態や大雪注意報の事も考え引き返す。昼から雪洞ほりをしたが部屋の真中に地面が現われ使用不可能。

⑨ 快晴、夕刻よりガスル。

5:00 起床	3ピッチ
6:20 朝食	4:10 B.C. (カキ)
8:00 出発	6:00 夕食
5ピッチ	
1:05 妙高山頂	
1:20	

始めて妙高山がはっきりと姿を現した。朝、寝過ぎして、出発が遅れた。始めブレイカブルクラストでまみりあだった雪も3ピッチ目大谷ヒュッテの少し先から、表面がゆるんでモグルシ、クズレルシ、ダンブになる。その重い事、重い事。本当に弱った。表面15~25cmが完全に浮いていてナダレの危険ばかり。それにしても何とか快晴の妙高山だけは登った。帰り着いた時は又、ガスの世界であった。

⑩ 晴

6:30 起床	2:45 池の平
7:15 朝食	3:05
1:30 出発	3:20 田口
2:00 リフト終点	5:11
2:15	6:15 長野帰着

ゆっくりして、天気図の書き方等研究してから、昼食にカンパも頂き、出発する。今までで一番雪も落ちており、下りという事も多分伝って早い。早い。30分2ピッチで着いた。池の平からはホテルの人がグループで田口まで乗せられた。しかし、時刻表写し間違っただけで、ここで相違時間待たさる羽目となった。帰りの車窓に、下山中ガスの中にあつた妙高山が姿を見せてくれた。

④

5. 各係の反省;

・食糧係 (藤沢通代)

1. ネギが四日目頃になくて腐ってしまった。

1. ミチエーのポツテ(1人50g)は多すぎ、味を悪くした。

1. 一ツのコンヘルで2食分(6人分)の御飯を炊いたため

2. 食分ともシン入めるものにしてしまった。

1. ホットケーキ(那殿日のもの)は食をそとった。

最後に、皆様からのカンパありがとうございます。

・装備係 (桜井栄子)

何も分からなかったのが、是非必要なものを確実に揃える様に注意しました。

予備のピッケルバンド……算忘れてしまったが、他は大失敗がなく、ほっとしています。

思いがけず、雑布が大活躍しました。

・燃料係 (桜井栄子)

ガソリンは、1人/日0.25L  
ローソクは、3人/日 $\frac{1}{2}$ 本)で丁度良かったと思います。

入山之日目に、ホエブスの調子がおかしくなり、ガソリンの種類をまちがえたのが、又はホエブスに雪を入れてしまったのかと大心配しました。(ホエブスをゆすると調子良くもえているが、じきに消えてしまう、と云う事が何度も繰り返された。)原因はホエバス内部の錆がほげ落ち、底部に溜ったためと分かりましたが、今後この様なことがないように、入山前にホエバスの内部も点検した方がよいと思います。

・医療係 (桜井栄子)

大した病人、怪我人が出なくて幸いです。

入山前から、体の調子を整えておく事が非常に大切

(4)

な ことと思 います。

使用薬品  
・胃腸薬(調合) 7袋  
・ルル 6錠

○ 気象係 (藤沢通代)  
気象観測

3月6日

午前中曇り、昼ごろより小雪となる。  
大雪注意報出る。(P.M.4:00)

テント温 5°C.

3月7日

朝、昨日から降り続いた雪は雨となる。

P.M.3:00雨がやむ。

雪温 -2°C. 気温 0°C. (P.M.5:00)

新雪 20cm.

3月8日

朝小雪(1日中降り続く)

稜線に吹いて風やや強し。

夜雪もやみ、星が見える。

新雪 10cm.

気温 1°C.

3月9日

日中晴れ。

P.M.2:00頃からガスってくる。

気温 -2°C. 雪温 -5°C.

3月10日

晴れ。

反省

1. 毎日一定時間に観測しなかつた。

1. 天気図のつけ方が未熟でリーダーにならされて、ようやく1つの天気図を作ったこと。

①

。会計係 (桜井栄子)

収入の部

合宿費  $1,550 \times 3 = 4,650$ 円

支出の部

食費

米 400.-

肉 206.-

その他 3,086.-

小計 2,692.-

装備

電池 75.-

天竺用紙 40.-

茶袋 100.-

小計 215.-

薬 ビタミン剤 470.-

燃料

ガソリン 330.-

ろうそく 50.-

小計 380.-

遭対基金(3人分) 300.-

支出総計

4,057円

残金

593円

残金の中から記録に必要な経費を出したいと思っております。(これだけ残ったのは冬山の残りのパンを使用しただからです。)

## 6. 感想

。感想 藤沢通代

入山中のできごと... etc.

3月6日

頭をたれて、ただスキーの交錯する跡をみながら登る。急に前を横切っていくスキーで、足もとがふらつく。スキーの男性をうらんでも仕方ない。

3月7日

雨にたたかれながら登る。下のスキー場からかすかに音楽がきこえてくる。ガックは昨日より重く感じる。

る。

あもうこと、ただリーダーから「1本と多がかかるとのみ。

3月8日

今日は半流。(all流でも半流でも流瀬とつ：日はよくモ)

今日のできごと。

・うまくたてたつもりのポールをリーダーにポイントと倒されたてなおす。

・午後雪洞づくりの講習。

・シュラフが氷りつき。Eikoさんのシュラフで一語にねる。予ことに暗い。

3月9日

オーバー・シュラフではキッチリしていた2号のアイゼンも靴の目>では大きすぎ。何回となくはずれてしまい、二人の方に迷惑をかけたしまったこと申しわけなく思っています。今後気を付けます。

・妙高の途中でカモシカの足跡をみつける。(もしもカモシカであったら……)

・明日は下山。最後の夜。論じあって就寝 P.M. 12:00 少し前。

3月10日

・テントを透す太陽の明るさでエッセン起床時刻 30分前に起きた。

・9:00 天気図つけ方講習。

・帰りの列車時刻を下りと上りを見誤って遅くなってしまう。迷惑をかけたしまった。

・帰りの汽車からの妙高も乗る時のそれよりもいくらか高くみえ、やはりカモシカでなくってよかった……と。

以上、5日間の行程の合宿で、多くのミスをしてしまいました。下が、諸々の講習、リーダーからのアドバイスをうけるが、今までの合宿とは違った、いわゆる



⑦

自分達の合宿をオマセたことに心強さを感じました。  
時には、オトウキヤンやオネエキヤンとの山行のよう  
なフンイキもありましたけれど、一風変わった味があり  
楽しい山行でした。以上。

駒井 浩

やはり今回の合宿は間際のリーダー変更がまずがっ  
た様だ。というのほ各人リーダーとなつた場合、目的  
やメンバー、やり方を考へて場所を選ぶであらう。しか  
し今回は間近だつたので場所までは変えられなかつた。  
試験中ではあつたが、地形その他身元にある資料は殆  
ど調べ、見た事のない風景まで頭に浮かぶ程になつてい  
た……とは言ふものの妙高周辺の雪の状況や実際にどう  
動くかについては、余り計画の立たない状態であつた。  
そして終身でしかも単にピークハントのために妙高へ  
だけ行ったような結果しか生みだせなかつた。

次にその原因となつた天候と雪の状況について述べ  
ておこう。入山前に続いた高温と雨で溶けた雪が4~5  
の2日間の冷え込みで完全に凍り付いた氷の表面のア  
イスバーンとなつた。そしてその上に5日頃から降り  
出した湿った新雪が10~15cm積つていた。そして7日  
の雨でぬれた重い雪となり、その上に8日の新雪(やは  
り湿つていた)が乗つた。殆ど毎日、午前中表面1~2cmは  
ブレーカブルクラストしていた。つまりアイゼンにし  
ろワッパにしるものすこくダンゴがうき急な斜面では  
併用したままでお樂にグリセートが生まれた。どこの行  
つてもアイゼンがキコキコ……なんぞ場所はなかつた

ところが今回の目的は違つた。  
生活技術—これは用いれない。下山の頃は慣れたせ  
いか男器違ふようになつていた。  
自己性を養う—合宿前のオメタ様な甘えた様な面は、

入山後消えていった様だ。全体に研究不足が  
又、荷物を担いだ登りに対する気分的な弱さ等  
の課題であらう。良い指導者が居れば、女子  
して心配ない。

尚、男子にもあてはまる共通の問題として、—  
係にして、もとの係は、何のために、どういう事に  
置いて、最低どの程度するべきか、を指導する  
ある—と感じた。

とにかく何らかの形で、今後の出発点にはな  
だ。